

- …………小池司朗・菅桂太・鎌田健司・石井太・岩澤美帆（社人研）・山内昌和（早稲田大）
「近年の出生動向と再生産水準回復の可能性：日本の場合」
……………原俊彦（札幌市立大）
「『全国小地域別将来人口推計システム』のデータを用いた人口密度別推計の試み」
……………井上孝（青山学院大）
「岩手県大槌町にみる「仮設住宅を出られない人々」に関する考察」
……………飯坂正弘（農研機構・中央農業研究センター）
「近年の出生動向分析～東北地方の状況について～」
……………佐々井司（社人研）
「非大都市圏に住む大都市圏出身者の特性」
……………清水昌人（社人研）
「移動経験と生きづらさとの関係に関する試験的分析
～よりそいホットラインの継続支援相談者を対象として～」……………丸山洋平（札幌市立大）
（貴志匡博 記）

低出産の指標と政策に関する国際セミナー

2018年12月10～11日，韓国統計庁と国連人口基金が共催する International Seminar on Indicators and Policies of Low Fertility がソウル特別市のフォーシーズン・ホテルで開催され，当研究所からは筆者と福田節也企画部室長が招聘された。2日間にわたるセミナーは，オープニングと4つのキーノート・スピーチ（Thomas Sobotoka, Seulki Choi, Doo-Sub Kim, Stuart Gietel-Basten），および次の5つのセッションで構成された。

1. Determinants of Low Fertility
2. Local City Landscape in the Era of Low Fertility (Population Decrease)
3. Socio-cultural Determinants of, and Policy Responses to Low Fertility
4. Economic Impacts on Low Fertility
5. Future Directions of Low Fertility Policies

筆者は第5セッションの報告者として登壇し，福田室長は第1セッションの報告者に加え第5セッションの討論者としても登壇した。Tomas Sobotoka（ウィーン人口研究所），Laurent Toulemon（フランス国立人口研究所），Stuart Gietel-Basten（香港大学），薛承泰（国立台湾大学）ら著名な人口学者に加え，出生促進策のセミナーに招聘されることが少ないアメリカ人が数名招かれていたのが珍しかった。（鈴木 透 記）

ウメオ大学社会学部及び人口・高齢化研究センター合同セミナー

スウェーデン・ウメオ大学社会学部及び同大学人口・高齢化研究センターの招聘を受け，2019年1月11日（金）に，本研究所の福田節也・企画部第2室長が「21世紀日本におけるジェンダー，政策，家族形成（Gender, Policy and Family Formation in the 21st century Japan）」と題する講演を行っ